

地域課題① 各世代が参加しやすい活動に再構築

★具体的取組の例

- 日常的に近隣同士が気軽に会話できる雰囲気や場づくり
- 各世代が単位自治組織活動に参加しやすい雰囲気や場づくり
- 子ども会や中高生などの若い世代、あるいは高齢者団体等が、それぞれの年代だけでなく幅広い年代を対象とする事業を企画・運営し、交流を広げる
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページや SNS を併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	16	50%
取り組まなかった	16	50%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・全体的に 1 人 1 人への負担を軽減し、気軽に参加できる雰囲気作りを心掛けた。
- ・近隣で声掛けをして集会に参加してもらうようにした。
- ・年間を通し 1 つの事業において役員が主体となって、住民に幅広く声掛けを行い、まずは参加率を上げる行動を実践し、話題喚起、事前情報を積極的に行う等して、確実に参加率の向上が見られた。
- ・4 年ぶりに例大祭祝賀会、新年祝賀会を実施し住民の交流を図ったところ、久方ぶりで住民間の懇談の場が持てて良かったが、高齢者世帯、休日勤務世帯が増えて参加者が少なくなっている。

【31～100 世帯】

- ・各事業の会合への参加を「声掛け運動」を通して参加者の意識を高め、町内会のあり方を含め協議している。
- ・日常的に近所同士が気軽に会話ができる場づくりを行ったが、あまり効果が無かった。
- ・子供・親・町内会合同で地区内路肩等のごみ拾い。
- ・春祭りの隣組での取組みや育成会・生産組合・土地改良区・老人クラブの活動。
- ・新年祝賀会や、4 年ぶりに春季祭典祝賀会や納涼ビアパーティーを開催し、各事業ともに若い世代の参加が以前より多くなった。
- ・老人クラブ～子供会でグランドゴルフ・輪投げ大会を行った。
- ・各種団体長会議を年 2 回行い、住民多くの参加のできる事業計画を立て行った。
- ・市民運動会への積極的な参加を勧めたところ、コロナ禍で停滞した住民の交流が戻ってきた。

【101～300 世帯】

- ・子供から高齢者まで、幅広い年代層が参加可能な軽スポーツ大会等を企画・運営し交流の輪を広げることができた。
- ・老人クラブ、消防団、育成会などと合同で夏祭りを開催し、各世代の参加を得た。

地域課題② 将来を見据えた持続可能な組織づくり

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 隣組や班などの統合再編など組織の見直しや、役員構成の見直し
- 現役世代が参加できる役員体制と共通認識づくり
- 将来を見据えた会費のあり方の検討

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	17	53%
取り組まなかった	15	47%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・役員中心であるが話合いの場を作り、継続して取り組む。
- ・組織の合理化に努め、誰でも簡単にできる組織運営を心掛けた。
- ・既存事業の見直しや役員構成の見直しを行った。
- ・今後の運営費のあり方について話合いをしたが、結論が出せなかった。
- ・予算執行の見直しによる費用の削減を行い、併せて各事業の内容充実とのバランス取りに努めた結果、町内会費の一部見直しによる収入減も考慮しながら、事業展開の工夫、負担軽減を図った。

【31～100 世帯】

- ・自主防災活動による町内会の安全に取り組んだ。
- ・公民館及び付帯設備の将来的な改修や、修繕を計画的に行うための積立てを継続的に実施した。2 か所あるごみステーションの内、まだ網で覆っている構造を引き戸に改修したところ、ごみの出し入れが容易になり、かつカラスの被害が無くなった。
- ・各団体長をメインに研修会を開催し、町内会の問題点や要望など、次年度への活動の指針とし、総会での報告、及び方向性を示し、町内会予算で賄える場合は、年次ごとに実施し、長期的な計画（予算）が必要な場合は、次役員への申し送り事項とした。
- ・既存事業の見直しと将来を見据えた会費のあり方の検討をした。
- ・組織・役員の在り方について班会にて話合いを行い、問題点を浮き彫りにし対応を検討してゆく。
- ・町内会費を見直し、負担の軽減に繋がった。
- ・コロナ禍で事業縮小のため、町内会費を下げた。
- ・体育部役員の人数を半分にし、体育部役員と町内会役員の協力をするようになった。

【101～300 世帯】

- ・各事業評価を行い、事業内容及び組織体制の見直しを行った。

地域課題③ 広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し

★具体的取組の例

- 既存事業の見直し
- 広域コミュニティ組織等と連携しての生涯学習事業の実施
- 多様な媒体を活用した事業周知、年齢層やライフステージを意識したPR活動

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	8	25%
取り組まなかった	24	75%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・地区自治振興会の「地域ビジョン」の策定の取組みに参加した。

【31～100 世帯】

- ・ 子供育成会が主体となり、町内会及びみどりネットの参画で、地域道路のごみ拾いと町内会全戸へ花を移植したプランターを配布した。併せて、子供達に共用部分の水やりの役割を持たせた。子供のころから地域事業に参画することで、地域での役割や責任などの心の育成に繋がった。
- ・ 軽スポーツ教室を広域コミュニティ組織と共催することで、単独では難しい事業でも開催でき、興味が深まった。

地域課題④ 広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり

★具体的取組の例

- 自主防災計画の見直しなど自主防災組織の機能点検の実施
- 定期的な防災訓練の実施
- 緊急時や災害時に備えた住民情報の収集とその適正管理
- 地域における防犯意識を高めるための啓発活動の実施
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 空き家情報の把握と市への情報提供

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	47%
取り組まなかった	17	53%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・ ポンプ小屋の解体、消火栓ホース収納箱の取換えの相談を行った。
- ・ 町内会役員で防火水槽の保守点検、蓋の取っ手の番線交換をした。
- ・ 自主防災施設の点検を実施した。
- ・ 実情に合わせた自主防災組織の見直し、各戸への展開及び春先の消防団、保健衛生推進員との連携によって各戸への注意喚起を行った。回覧板等の活用により突発的なこと、緊急を要する事案についてスムーズな流れができた。
- ・ 消火栓、消防設備の活用のお話をし、火災時の行動の意思疎通が図られたが、消火栓を使った消火訓練が雨天のため実施できなかった。

【31～100 世帯】

- ・ 空き家情報の把握と市への情報提供を行ったほか、隣近所との話し合いをした。
- ・ 防災研修を行い自主防災組織の再構築に繋がった。
- ・ 地区内外の団体である消防団と連携強化を行った。
- ・ 自主防災組織を見直し、責任の明確化をした。

【101～300 世帯】

- ・ 災害時避難行動要支援者の個別の避難計画を作成した。
- ・ 空き家管理について、情報の把握、市との連携を図った。
- ・ 地域活動センターと連携した防災訓練を実施した。
- ・ 令和4年度中に世帯名簿（家族カード）が完成し、防災訓練に活用することができた。

地域課題⑤ 地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築

★具体的取組の例

- 高齢者単独世帯への声掛けなど、普段からのコミュニケーション構築
- 高齢者の方々の知見と経験をいかす地域福祉活動
- 有償ボランティアの検討など、持続可能な地域福祉の構築
- 単位自治組織と広域コミュニティ組織との機能・役割分担会議の開催
- 課題や将来像を共有する場づくり

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	15	47%
取り組まなかった	17	53%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・高齢者世帯への声掛けをし、高齢者の健康状態が把握できた。
- ・育成会、老人クラブによる町内一斉清掃を行った。
- ・役員を主体に積極的な戸別訪問を軸とした各戸との接触を図り、日頃からの住民とのコミュニケーションにより、神社・寺行事への参加意欲が高まった。

【31～100 世帯】

- ・単身高齢者世帯の町内会費半額を継続して実施し、今後増える高齢者世帯への負担軽減を継続して行う。
- ・除雪協力隊を編成し、自宅及び高齢者宅の除雪車が運んだ雪で見通しが悪くなった箇所や、消火栓・防火水槽の除雪に協力いただいた。
- ・令和 5 年度版自主防災計画に合わせて、避難行動要支援者個別避難計画を策定し、自主防災計画書を全戸配布した。
- ・福祉関係の研修で意見交換を行うことで、各戸ごとの要支援者を推測し、情報共有できた。
- ・保健衛生推進員の主導での健康教室の開催することで、保健衛生推進員と住民の距離が近くなった。

【101～300 世帯】

- ・除雪・公園清掃等のボランティア活動を推進し、育成した。
- ・歩道、緑道などは除雪協力体制により、除雪活動を実施した。今後は、高齢者世帯への除雪ボランティアの確立に努めたい。

地域課題⑥ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

- 子どものころから地域活動に関わることができるように、開催日や運営形態等の工夫
- 伝統行事や伝統芸能への理解促進と継承活動の支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	11	34%
取り組まなかった	18	56%
無回答	3	10%

具体的取組とその効果など

【30 世帯以下】

- ・保全会による花の植栽をし、幅広い年齢層の参加があった。
- ・集落内周辺、通学路を中心としたごみ拾い活動、花植え運動、住民によるビアガーデン（子供会の参加）等幅広い世代の参加があったが、一方で子供の数が年々減少しており、事業規模の縮小が危惧される。

【31～100 世帯】

- ・伝統芸能や夏祭りを開催し、家族や友人との繋がりを深めた。
- ・土地改良区のエコフィールド事業により、田植えや生物調査・稲刈り体験で田園地帯の地域の特性を子供達が学んだ。
- ・夏祭り、収穫感謝祭（モチつき）など住民が参加しやすい事業を行った。
- ・町内会だよりで婚活サイトである山形ハッピーサポートセンターへの勧誘を試みた。

【101～300 世帯】

- ・緑化事業交付金を活用し、整備された藤島駅周辺市道の歩道に花を植栽する環境整備事業を、町内会員からボランティアを募集し、実施した。継続して環境整備事業を行っていきたい。

その他／ 地域で課題になっていることなど

【30 世帯以下】

- ・小規模の町内会は少子高齢化のため、人員不足である。将来、町内会役員も 2 回目・3 回目当たる可能性が大きい。
- ・空き家（空き豚舎）の状況が悪い。外壁が剥がれて突風で飛ばされたり、屋根が崩れ落ちている。
- ・人口減少により単一町内会で成り立たない状況が見えている。今後、複数の町内会と連立しないと活動できない。
- ・除雪（高齢者宅）。
- ・農業の後継者がいない。
- ・道路補修が簡易的なやり方で終わっており、長持ちしないので困っている。
- ・会員の高齢化、高齢者の 1 人世帯が増加している。また、空き家も増加しており敷地の雑草、立木の放置などの環境悪化が進んでいる。
- ・高齢化により現役世代が少なくなっている中、各種協議会等の数が多く役員選出が困難になっている。

【31～100 世帯】

- ・後継ぎがいるにも係わらず、市内または中心部への移住が増えている現状。将来的には空き家問題が加速し、町内会そのものの存続が危うい（人口減少）。

- ・獅子踊り保存会の後継者難。
- ・高齢化になり集落内の水路掃除が大変である。
- ・男女を問わず未婚者が増えてきた。
- ・町内会及び各団体の役員のなり手が少なく高齢化している。特に消防団員の確保が難しい。

【101～300 世帯】

- ・空き家問題、公園の公衆トイレのタイル剥離損壊、及び立ち木に対する苦情に関する問題がある。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

【30 世帯以下】

- ・公園の美化、危険物の撤去、町内会住民を対象とした防災、ごみ削減、適正処分等の研修会の計画。

【31～100 世帯】

- ・夏の高温対策、農村公園の遊具の取換え、防災対策。
- ・町内会役員に女性推進を検討している。
- ・コロナで休止している夏祭り等、大人数が集まる行事、研修会など。
- ・隣組の再編を行い、活動可能な会員のバランスを整える。

その他／ 地域コミュニティに関するご意見など

【30 世帯以下】

- ・積極的な「世話やき人」組織の立ち上げなど婚活の取組み。
- ・10 年後、20 年後の町内会の展望が見えない。

【31～100 世帯】

- ・高齢化に伴い町内会費収入の減少が気になり。
- ・庁舎、活動センターは自治会・町内会をまとめるための具体的な施策を進めてゆくことが必要。
- ・地区への負担金の割合が大きくなっている。また、町内会費の減額が難しい。

地域課題① 地区自治振興会を核とした活動の推進

★具体的取組の例

- 広域コミュニティ組織の維持と活動内容のPR
- 各種団体・組織の統合・再編の検討
- 地域コミュニティの実態を把握するための調査の継続実施
- 住民の声を反映した「地域ビジョン」の策定
- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による情報交換会の開催、連携に向けた検討
- アドバイザー職員による行政側の情報提供、地域課題の情報収集、解決に向けた取組支援

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・広域コミュニティ組織の維持と活動内容のPRを行った。
- ・各種団体組織による情報交換会の開催、連携に向けた検討を行った。
- ・市民運動会などの運動事業・地域学習講座・文化祭・農園などの各種事業を行うことで、小学生から高齢者まで幅広い年代の市民との交流が深まった。
- ・「花を愛でる会」が取り組む館内外の環境整備（生け花、花の植栽）を行い、生け花等で常に来館者を気持ちよく迎えることができた。
- ・令和4～5年度の2年間に渡り、地域づくりに関するワークショップを開催し、「地域の未来をみんなで築こう！」というタイトルの地域ビジョンを完成させた。今後は、地域住民にまちづくりの方向性を示しながら、地域ビジョンを柱に事業内容の見直し等を行い、進めていく方針である。
- ・地区内各町内会の高齢者組織の連携組織「地区高齢者組織連絡親交会」が本年度発足し、その手助けをした。
- ・地域ビジョン策定に向けた会議を5回開催した。

地域課題② 持続可能な運営方法の確立

★具体的取組の例

- 会費のあり方の検討
- 住民合意に基づく活動の優先順位付けや内容の見直し
- 地域資源を活かしたコミュニティビジネスの導入
- 住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙のほか、ホームページやSNSを併用して発信

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	4	80%
取り組まなかった	1	20%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・住民自治組織の存在意義や役割、活動等を広報紙で発信した。
- ・町内会役員との会議を設定し、会費等の見直しを毎年行い、事業の実施では役割を分担し、スムーズに運営できた。様々な意見を取り上げ事業展開している。
- ・実施事業については実行委員会を設け、内容の検討を行っている。
- ・地区内の各種負担金の見直しを図り、適正な額の提示を行い、各町内会の負担軽減に努めた。
- ・毎月、事業案内、開催した事業の様子を掲載した「センターだより」を全世帯に配布し、住民の事業への参加意欲を促した。

- ・広報紙の発行により地域へ情報提供した。
- ・町内会連絡協議会、青少年育成協議会、生涯学習推進員等と連携し、諸事業の実施方法等について、協議を重ね、改善を図っている。

地域課題③ 地区内外の団体との連携強化

★具体的取組の例

- 各種団体組織（広域コミュニティ組織、単位自治組織、社会福祉協議会等の団体）による意見交換会の開催、連携に向けた検討
- 人材育成のための研修機会の充実（単位自治組織若手を対象とした研修会、PTAと連携しての地域人材育成研修会、コミセン職員研修会等）
- 町内会長連絡協議会等地域全域で構成される組織と広域コミュニティ組織との連絡調整会議の開催

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・各種団体組織による意見交換会の開催、連携に向けた検討を行い、連携することができ、役員同士の意見交換で共通理解が図られている。
- ・研修機会を設定し、防災意識の高揚を図っている。
- ・地域自治振興会連絡協議会及び生涯学習関係機関との定期的な会合の場で、意見交換を行った。
- ・関係団体等との連携を強化しながらも、諸事業に女性や若者の声が反映できるよう、新たに団体枠を募集したりして協力を依頼している。
- ・長沼温泉ぽっぽの湯の運営協議会の一員として、健康づくり及び集客の事業を当温泉施設で主催開催し、令和5年度の入浴利用者拡大に寄与した。

地域課題④ 福祉と防災で新たな役割を確立

★具体的取組の例

- 単位自治組織と広域コミュニティ組織、市による機能・役割分担の確立
- 単位自治組織と情報を共有する体制づくり
- 学校、保護者、単位自治組織、広域コミュニティ組織、地域団体との連携による「見守り隊」活動の実践
- 関係団体等との協働による防災訓練の実施
- 高齢者の生活ニーズを踏まえ、持続可能な課題解決の手段として、コミュニティビジネスの取組に向けた検討
- 中学生・高校生の防災意識の高揚（応急処置講習会、防災訓練への参画）
- 災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりの推進
- 地域共生社会の実現に向けた「地域支え合いプラン」の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・関係団体等との協働による防災訓練を実施し、多数の参加者の防災意識を高めることができた。
- ・災害に即応し、自助共助が発揮できるまちづくりをした。
- ・避難行動要支援者の個別避難計画を作成した。
- ・防災研修視察・独居高齢者ボランティア及びあったか弁当の配布を行い、防災意識がより高まった。
- ・市の災害時地区指定職員と災害時における動向について、年度当初に打ち合わせをし、共通理解し

た。

- ・一般の防災意識の高揚のため救急法講習会を行い、いざという時の心構えを学べた。
- ・包括支援センターと連携してゆったりカフェ(認知症カフェ)を3回開催し、認知症について学んだり、気軽に相談できる場を提供した。
- ・地区の町内会と連携し、年1回防災訓練を実施し、自主防災体制や情報交換等を行いながら、機能強化できるよう働きかけている。

地域課題⑤ 「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり

★具体的取組の例

○子どもたちの郷土愛を育む地域教育活動の実践

○この地域でなければ経験できない伝統芸能、食生活、スポーツなどに、子どもたちから触れ合う事業を実施

○地域と学校の連携・協働によるコミュニティスクールの導入と地域学校協働活動の推進

選択肢	回答数	割合
取り組んだ	5	100%
取り組まなかった	0	0%
無回答	0	0%

具体的取組とその効果など

- ・子供達の郷土愛を育む地域教育活動の実践し、子育て世代の保護者をサポートすることができた。
- ・自主組織による手作りの会や踊りの会を行った。
- ・小学生を対象とした事業を年6回、保護者や地域の各団体の協力を得て実施、多世代との交流も企画、実施した。
- ・学社連携事業としてグラウンドゴルフを実施し、小学6年生と地域の人とスポーツを通して触れ合うことができた。
- ・毎月開催の「放課後子ども教室」や「わんぱく広場」の事業で支援員や実行委員の協力の元、様々な体験の機会を設けると共に、児童達との世代間交流を図った。
- ・気軽に集える場としてイベントを企画したり、子供達も地域に関わる場を提供している。

その他／ 地域で課題になっていることなど

- ・少子高齢化、空き屋について。
- ・デマンドタクシーの利用促進。
- ・小中一貫教育、防災など。

その他／ 具体的に考えている事業や取組んでみたい事業など

- ・地区全体の防災組織の構築。